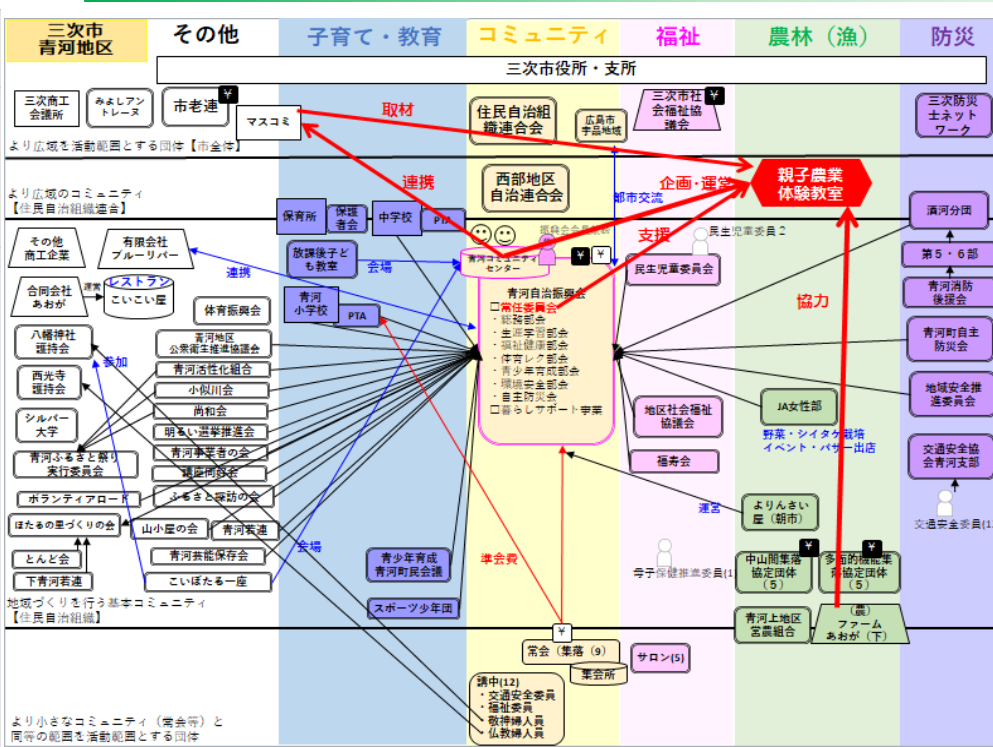


01 取り組み概要

実施主体	青河自治振興会
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ● 交流人口を増やす。 ● 青河の魅力を発信し、青河のファンになってもらう。 ● 青河の強みとしての農業を核とし、都市部等から親子で農業体験を楽しんでもらう。
内容	<p>今年度で3年目となります。2021年度は、募集をしたが応募者ゼロで実施出来ませんでした。2年目の昨年度は、新聞による紹介もあり、8家族28名の参加が得られました。そして、今年度も4月に新聞による紹介もあり、5家族19名の参加者により実施しました。</p> <p>5月から11月まで月1回のペースで全7回のプログラムを実施しました。農事組合法人ファームあおがの協力・支援もいただき、田植え、稲刈り体験も実施できました。</p> <p>今後も継続した取り組みにより、青河の魅力を感じてもらい、将来的に青河で住んでみたいと思う方が出てくれることを期待します。</p> <p>地域の野菜栽培への魅力も同時に発信し、家庭菜園の機運を高めたいと思います。</p>

02 取り組み体制



2020年度地元関係図上に表示

03 特徴・工夫

- 地域にあるものを活用
 - コミュニティセンターの裏には15アールの畑がある。
 - 過去、この場でサツマイモ栽培をし、都市部の幼稚園と交流。
- あるものが、強み(特別なものを用意しない)
 - 畑がある。野菜栽培ができる。都市部から親子で農業体験ができる。
 - 体験活動には、子どもや大人を変えるパワーがある。(地域の支援)
- 青河のファンを作る農業体験活動
 - 野菜の成長と収穫を通じた感動や学び。
 - 土、虫、空気等自然を五感を通して満喫する。

04 成果と課題

成果

- 青河に来ることを楽しみにされている
 - 月1回の農業体験ですが、当初は保護者につれられてきていた子どもたちも回を重ねると、青河に行くことを楽しみにしている。収穫した野菜を使った家庭料理で親子の会話も増え、野菜嫌いだった子ども野菜を食べるようになったとのこと。
 - また、豊かな自然に触れる体験が楽しいと感じてもらっている。

課題

- 地域を巻き込んだ運営のあり方
 - 地域の方がさらに参加しやすいプログラムや交流の場をどのように設定すればいいのか、工夫が必要。
- 参加者同士の交流の場を充実
 - 参加者同士が、楽しく交流できる場を創意工夫したい。

05 取り組みの様子



第1回(5月) 開校式・田植え

5月21日 5家族19名の皆さんが参加され、開校式を行い、その後、夏野菜の種まき、田植え体験を実施しました。



第2回(6月) 夏野菜収穫

6月18日 小松菜、ラディッシュの収穫を行いました。思いのほかたくさん収穫できました。



第3回(7月) 竹ご飯づくり

7月23日 暑さで枝豆は収穫ゼロでした。竹ご飯づくり体験を行いました。8月27日 秋冬野菜の種まきをし、夏野菜のピザづくり体験を行いました。

第4回(8月) ピザづくり



第5回(9月) 稲刈り体験

9月17日 8月に蒔いたキャベツや白菜の種が成長し、苗を植えました。5月に植えたコンヒカリを刈り取りました。



第6回(10月) 薩摩芋収穫 & 竹パンづくり

10月15日 薩摩芋を収穫しました。今年は、いい出来です。おやつ竹パンも好評でした。



第7回(11月) 冬野菜収穫 & 修了式

11月19日 大根、かぶは大収穫でした。キャベツ、白菜も良い出来でした。約半年ご苦労様でした。

声

子ども達

☆さつまいもほり楽しかった。さつまいもいっぱいとれて楽しかった。
☆かまどいねをかる音とかんしょくがおもしろくて楽しかった。
☆パン屋が夢なので、家の草畑を畑にしたい。家で作った野菜でパンを作り、皆に喜んでもらいたい。

声

保護者

○土や植物、野菜に触れると心も元気になると毎回感じる。野菜嫌いの息子も自分で収穫し作ったピザを食べていたのが印象的。
○田植え作業は、初体験。みんなで協力しながら植えることがとても楽しく泥の感触とともに思い出。